

事務事業名		小中学生絵画作品コンクール開催事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	4	豊かな心を育む教育・文化づくり			担当	担当部	教育総務部	担当課	吉澤記念美術館
	政策	2	生涯にわたり学びのあるまちづくり			組織	担当係		担当課長名	金原 隆徳
	施策	2	歴史・文化資源の継承と芸術・文化活動の推進			事業区分	新規事業・継続事業		継続事業	
	基本事業	3	文化・芸術に触れる機会の充実				実施計画事業・一般事業		一般事業	
短縮コード	会計	款	項	目	市単独事業・国県補助事業		市単独事業			
14968	一般	10	4	7	任意的事業・義務的事業		任意的事業			
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H14年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法 佐野市立美術館条例		実施方法		直営
							事業分類		その他市民に対する事業	
							リーディングプロジェクト		該当なし	
							市長マニフェスト		該当なし	

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)							
管内の小中学生を対象に、佐野市に関するテーマの絵画作品を募集し、すぐれた作品を表彰する。 また、全応募作品を展示した作品展を美術館内の地域交流センターで開催する。			「わたしの好きな佐野市」をテーマに作品募集・展示 展示期間：平成27年1月4日(日)～平成27年2月18日(水) 応募先品数 33校 805点(小学生：25校 642点 中学生：8校 163点)							
活動指標			単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)		
管内児童・生徒数			人	9,214	9,075	9,000	9,000	9,000		
管内小中学校数			校	40	39	39	38	38		
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
佐野市管内小中学校の児童・生徒 佐野市管内の小中学校			対象指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
応募者数					人	393	805	500	500	500
応募学校数					校	33	33	35	35	35
目的										
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
① 自ら絵を描くことをとおして、美術に親しみをもってもらおう。 ② 募集する作品のテーマを佐野市に関することにより、郷土への愛着を育んでもらう。			成果指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
全児童・生徒数に対する応募者の割合					%	4.3	8.9	5.6	5.6	5.6
管内学校数に対する応募校の割合					%	86.8	84.6	92.1	92.1	92.1
美術館企画展入場者に対する作品展のみの鑑賞者の割合					%	40.0	25.5	30.0	30.0	30.0
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
気軽に文化・芸術に触れられる。			上位成果指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
郷土博物館、吉澤記念美術館等入場者数					人	64,940	63,398	52,000	52,300	52,700

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円								
	一般財源	千円	105	120	154	154	154			
	事業費計(A)	千円	105	120	154	154	154			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報償物資費	54	報償物資費	59	報償物資費	70	報償物資費	70
			消耗品費	50	消耗品費	61	消耗品費	63	消耗品費	63
印刷製本費			1	印刷製本費		印刷製本費	2	印刷製本費	2	
				筆耕翻訳料	19	筆耕翻訳料	19	筆耕翻訳料	19	
人件費	人	3	3	3	3	3				
のべ業務時間	時間	96	96	96	96	96				
人件費計(B)	千円	374	378	378	378	378				
トータルコスト(A)+(B)	千円	479	498	532	532	532				

事務事業名	小中学生絵画作品コンクール開催事業	担当部	教育総務部	担当課	吉澤記念美術館	担当係	
-------	-------------------	-----	-------	-----	---------	-----	--

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	美術館の基本理念「芸術・文化のまちづくり」の一環である感性豊かな子どもたちの育成を目的に、平成15年度から開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	テーマによって応募数は増減する傾向がある。平成25年度は、田中正造のテーマで、前年度より3割ほど応募が少なかった。平成26年度は「わたしの好きな佐野市」として、広く佐野市をPRする作品を募集したところ、これまでで最高の805点もの応募があった。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	応募者の保護者や展覧会観覧者からは「こどもの作品が展示され、楽しく鑑賞できた。」「美術館の企画展も観覧し、本物の作品に触れることで美術への関心を深めた。」運営協議会委員からは「日頃美術館に縁のない人にも、美術館を初体験する良い機会になる。」などの意見があった。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(コストの見直し)	特別賞の単価を見直し、報償物資費を削減した。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	美術に親しむ機会を提供することにより、児童・生徒の美術に関する知識と教養の向上及び感性豊かな子どもたちの育成を図ることは、地域社会の文化振興に寄与することを目的としている佐野市立美術館条例の趣旨に沿っており、政策体系に結びついている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	現在の社会情勢の中で、文化・芸術活動の場を提供することは、児童・生徒の感性豊かな心を育むことや美術への知識の向上に寄与することとなり、公立美術館としての大きな役割の一つである。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	学校との連携は、教育普及活動の一環であり、対象と意図は妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	参加校は、小学校が27校中25校(92.6%)、中学校が12校中8校(66.7%)である。全校参加となるまで、個別に働きかけをしていく必要がある。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	平成26年度は報償物資費を削減した。 審査・表彰式・展示以外の業務については1人で従事しており、これ以上の削減は難しい。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	義務教育の児童・生徒を対象としており、受益者負担にはなじまない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)			
教育普及活動は、美術館の使命のひとつである。子どもたちの感性豊かな心を育むため、また、その保護者への美術への関心を深める機会ともなっており、継続・拡大すべき事業といえ、廃止すべきではない。				

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																								
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					